

術後補助療法として免疫細胞治療を実施した固形がん症例に関する予後の検討を行い、解析結果をまとめた論文が学術誌『Anticancer Research』に掲載されました。

医療法人社団滉志会 瀬田クリニックグループは、固形がん症例に対して術後補助療法として実施した免疫細胞治療の効果を検証するための後ろ向き調査研究(過去のデータを調査・分析する研究)を行い、本研究結果をまとめた学術論文(*1)が、がん分野の学術誌『Anticancer Research』に掲載されたのでお知らせいたします。

固形がんに対する術後補助療法の治療成績は、近年向上しているものの未だ不十分であり、新しい治療法の確立が期待されています。今回、当グループで術後補助療法として免疫細胞治療を実施した固形がん(肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌、乳癌)141例を対象に、予後に関連する因子(臨床背景因子、治療法など)について検討しました。その結果、固形がん全症例における予後規定因子が特定できました。

[今回確認された主な研究結果]

- ✓ 1999年から2015年までに当院を受診し術後補助療法として免疫細胞治療を1コース以上受けた固形がん症例は141例で(肺癌26例、胃癌21例、膵癌17例、大腸癌36例、乳癌41例)でした。
- ✓ 免疫細胞治療を開始してからの固形がん全症例の全生存期間を解析したところ、3年、5年、10年生存率はそれぞれ86.6%、80.9%、74.5%でした。一方、無病生存期間は3年、5年、10年生存率でそれぞれ72.8%、70.5%、58.5%でした。
- ✓ 全生存期間における単変量解析の結果、固形がん全症例(141例)において、PS0あるいは病期I-IIIであることが予後良好であるとわかりました。また、癌種別の解析では、肺癌と胃癌においてもPS0が予後良好でした。
- ✓ 各癌種における全生存期間、無病再発期間は全がん協(https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/brochure/hosp_c_reg_surv.html)で報告されている生存率と比較し、同等もしくは免疫細胞治療を受けている患者さんの方が良好な結果でした。
- ✓ 無病生存率における単変量解析では、固形がん全症例と膵癌においてPS0の症例で予後が良好でした。また、乳癌においては56歳未満の症例が予後良好であることがわかりました。
- ✓ 全生存期間における多変量解析の結果、固形がん全症例においてPSが良好であることが予後良好な因子であることがわかりました。

固形がん症例では、免疫細胞治療開始時にPSが良好(PS0)な症例で予後を改善できることが示唆されました。今回の結果は単施設の後ろ向き研究(過去のデータを調査・分析する研究)によって得られたものであり、今後さらに多施設での前向き研究(試験デザインを予め決めて、治療データを集める研究)による評価・検証が必要です。

瀬田クリニックグループは、今後も臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信を継続することで、がん免疫細胞治療の発展に貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区神田駿河台 2-1-45 ニュー駿河台 ビル 3F

TEL: 03-5860-2393

URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: info@j-immunother.com

(*1) Efficacy of Adjuvant Immune-cell Therapy Combined With Systemic Therapy for Solid Tumors

ANTICANCER RESEARCH 42: 4179-4187 (2022)

【 瀬田クリニックグループについて 】

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」(現:瀬田クリニック東京(東京都千代田区))を開院以来、瀬田クリニックグループ全体で23,000名を超える患者さんに治療を提供しています(2022年6月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現:臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。